

会 師 医 師 市 小 牧 苦
医 師

上 田 幹 也

脳の間人ドック

脳の間人ドック（脳ドック）は脳卒中や痴呆（ちほう）などの脳の病気を積極的に脳の検診で見つけ予防しようというものです。最近まで脳の血管を無侵襲で見る方法がありませんでしたか、二三年前より高性能のMRI（磁気共鳴断層撮影）装置による血管撮影法（MRA）の進歩により、これが可能となってきました。最近の脳ドック

脳卒中や痴呆などを予防

の現状についてお話ししたいと思います。

1、脳ドックの検査項目

表1が最近の脳ドックの検査項目です。この中で高次大脳検査とは痴呆の早期発見のために記憶力を調べる検査で、X線CT検査とは、X線を用いた装置で、脳を輪切りにみて調べる検査です。MRI検査とは磁石を用いた装置で、CT検査では発

見が困難な脳腫瘍（しゅよう）・脳梗塞（こうそく）および脊髓（せきずい）の病変を調べる検査で、MRA検査とは造影剤を使用しないで、無侵襲に脳の血管を調べる検査です。これらの検査により、脳の病気の早期発見・早期治療を行っています。脳ドックは始まって日が浅く今後検査項目の改良がなされていくと思います。

2、脳ドックの対象となる病気

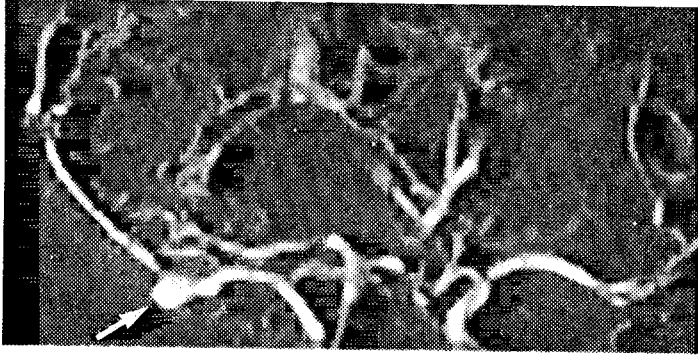
脳動脈瘤（りゅう）破裂はクモ膜下出血の主な原因で、四十一六十歳代に多く、顕微鏡下の手術が発達した現在でも約20%が死亡し、約30%に後遺症を残す恐ろしい病気です。脳動脈瘤が破裂する以前に外科的治療ができれば、クモ膜下出血で不幸な結果となる患者を減らすことができます。現在破裂する以前に発見された動脈瘤が将来破裂するか否かについては正確に判断できませんが、他に重篤な病気がなく動脈瘤の直径5mm以上で手術による合併症が極めて少ないと考えられる動脈瘤については予防的に外科的治療を

表 1

脳ドックの検査項目

1. 問診・神経学的検査
- ↓
2. 血圧測定
- ↓
3. 尿検査
- ↓
4. 血液生化学的検査
- ↓
5. 心電図検査
- ↓
6. 頭部・頸部・胸部X線検査
- ↓
7. 脳波
- ↓
8. 高次大脳機能検査
- ↓
9. X線-CT検査
- ↓
10. MRI検査
- ↓
11. MRA検査
- ↓
12. 総合診断
- ↓
13. 生活相談・栄養相談

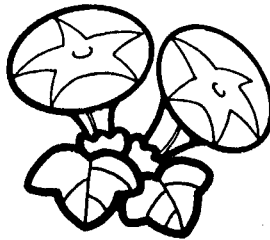
脳の間人ドック



MRA検査 矢印は脳動脈瘤

行う方向にあります。
MRIで見つかった症状のない脳梗塞やMRAで見つかった脳血管狭窄（きょうさく）あるいは閉塞（へいそく）の患者については積極的に治療を行うことにより、脳梗塞の予防の手が

かりが得られると思います。
高血圧性脳出血については、MRIで古い脳出血の痕が見つかることがないかぎり、あまり役立つことはないと思います。
最後に、痴呆については早期診断が可能となりますが、現在のところ有効な治療薬が少なく、今後の課題と思います。



お問い合わせは、苦小牧市医師会
電話 33-4720へ